

A. PF とは？

PF とは **point & figure** の頭文字をとったもので、名詞で考えると「点と形状」と云う意味であり、動詞で捉えると「点を描いて判断する」「点を描いて計算する」という意味でもあります。日中の動きは一切見ないで、一日の終値だけで相場を捉えます。更に 3 枠転換という手法を用いて**意味のある終値だけを×印は上昇、印は下落**としてグラフ用紙に描いていきます。今は様々な金融商品取引業者等がネットで PF の絵を提供していますが、グラフ用紙に鉛筆と消しゴムと定規をもって自ら描いていくのがあくまで基本です。自ら鉛筆で描いてみて相場の習性や、相場のエネルギーや相場のバランスのブレイクアウト（均衡している相場の均衡を壊すこと）を体感することができます。

×印、印の 1 枠をいくりに設定するかが、次の決めごとになりますが、描こうとする商品の価格の 1% を目途として定めます。目的やその商品の想定される変動域の大きさ等により適宜 1 枠の大きさを変えてかまいませんが、代表的な商品で示しますと、私は長年 1 枠の大きさとして米ドル/円は 50 銭、ユーロ/円は 1 円、日経平均は 100 円として捉えてきました。

×印と印で**3 枠転換の手法**で意味のある終値だけを記入していくと、「相場はバランスを崩せば跳び」、跳んだあとエネルギーを使い尽くして徐々に収束し再びバランスし始めて、またバランスを崩せば跳ぶことを繰り返すという相場の習性に気が付きます。

相場のバランスを崩したとき相場がどこまで跳ぶかの**目標値（相場のエネルギー）**の計算には相場のバランスの列の数を横に（水平に）計算して算出する**水平計算**と PF の絵の上での×印や印の列の長さを測り算出する**垂直計算**の二つ方法があります。

また相場のエッセンスだけを捉えた PF の絵に基づき、**上昇トレンドか下降トレンドかの認識を明確にもつこと**により、実戦相場に役に立てます。トレンドの転換を**デインジャー・ポイント**（上昇トレンドを壊すかどうかの見極めポイント）や**デインジャー・ポイント・ショート**（下降トレンドを壊すかどうかの見極めポイント）の位置を見極め、その突破によってトレンドの転換を認識しそれまで続いた過去のトレンドから決別し、**中長期目標値を念頭に持ち続けてきたポジションからの撤退**にも役立ちます。

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

B. PFでの Xの描き方

1. 価格は終値で捉える

一日一日の終値には象徴的意味があります。オーバーナイト・ポジションをとらない、即ち、その日を越えてポジションをとらないいわゆる「日計り」トレードのポジション整理の最後の機会であり、じっくりとポジションを維持していく中長期投資家タイプの売買も含めた全ての市場参加者の一日の全てのアクションを反映した一日の終値には日中価格以上の意味があります。特に日本の株式市場のような板寄せ方式を採用した取引所取引においてはその象徴的な意味合いが増幅されます。

為替ではシドニー市場、東京（アジア）市場、ロンドン（欧州）市場、ニューヨーク（米国）市場と流れてゆくほぼ 24 時間市場の一日の終わりという意味でニューヨークの午後 5 時の終値、東証の現物株式市場では午後 3 時の終値、大証の日経平均先物では午後 3 時 10 分の終値（いわゆる夕場取引は翌日扱い）を採用することになります。（以前出版した拙著の中で、「米ドル/円の為替は東京市場、ユーロ/米ドルはロンドン市場の終値を各のマザー・マーケット故に採用している」と記しましたが、市場のグローバル化、取引値の履歴のバックデータの捕捉の容易さを併せ勘案、現在では全て為替はニューヨーク市場の終値を採用しています。）

図 1 は米ドル/円を 1 枠 50 銭の 3 枠転換で 2004 年 12 月～2009 年 9 月の期間で一日の終値で捉えた PF の絵になります。

【図 1】



本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは断定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

2. 相場は「枠」、即ち、ゾーンで捉える

PF は と×という面積を持つ印で相場を捉える特殊性が故に起こるのですが、PF では相場をあくまで「枠」、換言すれば「領域」で相場を捉えます。「線」で捉える手法もないわけではありませんが、「枠」で相場を捉えていきます。

その理由は「線」で捉えると3枠転換ではなくなり事実上4枠転換となってしまうこと、同じ相場域を記す位置が上から下がってくる場合と下から上がってくる場合でその位置が異なってしまふことがあげられます。

【図 2】(注：実際は一つの四角の枠の中に内接するOやXを描きますが、図柄の都合上隙間があるOやXになっています)

102 円 50 銭 ~ 102 円 99 銭			
102 円 00 銭 ~ 102 円 49 銭			
101 円 50 銭 ~ 101 円 99 銭			
101 円 00 銭 ~ 101 円 49 銭		×	
100 円 50 銭 ~ 100 円 99 銭		×	
100 円 00 銭 ~ 100 円 49 銭		×	
99 円 50 銭 ~ 99 円 99 銭		×	
99 円 00 銭 ~ 99 円 49 銭			
98 円 50 銭 ~ 98 円 99 銭			
98 円 00 銭 ~ 98 円 49 銭			

【図 3】

102 円 50 銭 ~ 102 円 99 銭			
102 円 00 銭 ~ 102 円 49 銭			
101 円 50 銭 ~ 101 円 99 銭			
101 円 00 銭 ~ 101 円 49 銭		×	
100 円 50 銭 ~ 100 円 99 銭		×	
100 円 00 銭 ~ 100 円 49 銭		×	
99 円 50 銭 ~ 99 円 99 銭		×	
99 円 00 銭 ~ 99 円 49 銭			
98 円 50 銭 ~ 98 円 99 銭			
98 円 00 銭 ~ 98 円 49 銭			

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは断定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

「枠」で捉える方法を具体的に図2と図3で説明しましょう。今、ある日の終値で図2のよう98円50銭域まで下落していたとして、次のエントリーが入るためには98円00銭域、即ち98円00銭～98円49銭の領域まで下落した位置で終値をつける必要があります。98円00銭を示す「線」があるわけではないのです。

【図 4】

102円50銭～102円99銭				
102円00銭～102円49銭				
101円50銭～101円99銭				
101円00銭～101円49銭		×		
100円50銭～100円99銭		×		
100円00銭～100円49銭		×		×
99円50銭～99円99銭		×		×
99円00銭～99円49銭				×
98円50銭～98円99銭				
98円00銭～98円49銭				

先程の98円50銭域まで下落した位置から上昇して枠の転換（ここでは右隣の列に×を記すこと）が起こるためには図4のとおり最低100円00銭域（100円00銭～100円49銭）まで上昇する必要があるわけで、正に3枠分上昇する必要があるわけです。仮にこれを「線」で捉えるとすれば100円50銭まで上昇する必要があり、実質4枠分の変化が必要になってきます。ご自分で確かめてみて下さい。

3. 「3枠転換」で意味のない価格の動きを自動的に取り除きます

「3枠転換」を英語では 3-point reversal といいます。この意味するところは同じ方向への変動は1枠変化があれば同じ列に続けて1枠エントリーしますが、反対方向への変動、即ち枠の転換（reversal）の列から新たな次の×の列に、あるいは×の列からの列への転換に必要な反対方向へ3つ続けて×や のエントリーが入らないは限り新たな列への転換が起こらないことをいいます。

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは断定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

先の図の延長で、98 円 50 銭域の位置から枠の転換が起こるためには図 5 のとおり 100 円 00 銭域までの上昇がない限り起こらないことになります。この 3 枠転換のルールによってそれに充たない上昇、例えば今の位置 98 円 50 銭域から 99 円 50 銭域までの上昇は 1 枠 50 銭の 3 枠転換で相場を捉える限り、**意味のない動き**ということになります。この単純な **3 枠転換のルール**こそが**意味のない「小さな動き」**を取り除き、PF で捉える相場にとって意味のない動きに対して PF では意味がないと捉え、一喜一憂せずに済むことになります。

自らの「相場を捉える軸」があることにより、諸々の市場の雑音に囚われることなく「PF による実戦相場」を「実戦」できるベースにこの 3 枠転換があるのです。

【図 5】

102 円 50 銭 ~ 102 円 99 銭				
102 円 00 銭 ~ 102 円 49 銭				
101 円 50 銭 ~ 101 円 99 銭				
101 円 00 銭 ~ 101 円 49 銭		×		
100 円 50 銭 ~ 100 円 99 銭		×		
100 円 00 銭 ~ 100 円 49 銭		×		×
99 円 50 銭 ~ 99 円 99 銭		×		×
99 円 00 銭 ~ 99 円 49 銭				×
98 円 50 銭 ~ 98 円 99 銭				

4. 価格の上昇は × 印を記し、下落は 印を記す

PF では価格の上昇を × 印で、下落を 印で描きます。そもそも初めて PF を試そうとしている人にとってバツ (×) 印を相場の上昇として認識するのは少し抵抗があるかもしれませんが、これは決めの問題として受け容れてほしいと思います。そもそも相場を予測するための本質的目的からすればどちらでもいいわけですが、**一応ルールとして与えられたもの**として従ってください。自分だけのルールで市場を捉えたとすれば逆でもかまわないわけですが、他の PF の絵をみるときでも違和感なく見られ、敢えて従わない具体的メリットはないと思います。

5. 一つの列には × 印または 印しかなく、× 印の列と 印の列は必ず交互になる

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないかと仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

これは「3 枠転換」のルールに従っていけば当然の帰結として起こることですが、一つの列には×印または 印しかなく、×印の列と 印の列は必ず交互になります。その昔、アジアの某大手商業銀行のスタッフに PF の個人講義をしたときに、その方は何度説明しても同じ列に×印と 印を記したり、×印の列と×印の列が隣合っていたりしていたことを思い出しますが、「3 枠転換」のルールに従って 印×印を記していくと自ずとできあがることも慣れるまでは結構理解するのに時間を要するのかもしれませんが、自分の手で描かなくてもいろいろな業者が「PF チャート」を提供していますが、手始めに一つくらい自分の好きな投資対象を選んでご自分の手で PF を描いてみて下さい。そうすることによって相場の習性が徐々にわかってくるとともに、PF の特性を身をもって体感・体得でき、バランスを壊すポイントであるブレイクアウト・ポイントの捉え方も実感を伴って修得できます。ご自分の手で PF を描いた経験を踏まえて出来合いの PF のチャートをみるのと、ご自分で描いた経験もなく出来合いの PF チャートをみるのとでは格段の差が出てきます。

6. 一つの列には必ず 3 個以上の×印または 印がある

これも「3 枠転換」のルールに従っていけば当然の帰結として起こることですが、仮に 2 枠転換とか 4 枠転換のルールに従えば、一つの列には各々最低 2 個、4 個の×印または 印があることになります。然しながら、「相場の世界」では古今東西「3」という数字がマジック・フィギュアとして扱われていますので、「3 枠転換」のルールも「与えられたもの」として従って下さい。仮に 2 枠転換や 4 枠転換を選ばれたとしたら、後出の目標値算出の計算式において×3（枠）のところは各々×2 または×4 となりますが、あくまで 3 枠転換のルールに従って PF を描いて下さい。

7. 1 枠の単位は価格の 1%が基本ながら、目的に応じて決める

1 枠の単位をいくりにするかですが、**基本的には価格の 1%程度を目途としますが**、対象とする相場の過去の相場域や想定される価格の変動域や目的によって適宜決めて頂いても構いませんが、私自身は長年の実戦投資の中で、

米ドル/円の為替は 50 銭 1 枠、

ユーロ/円の為替は 1 円 1 枠

日経平均は 100 円 1 枠

ニューヨークダウ平均は 100 ドル 1 枠

日本国債 10 年物の利回りは 0.01%（日本の国債は利回りで売買される）

と設定して市場を捉えてきました。これが絶対的なものではなく、あくまで私の「実戦相場」での手法ですから、各々の目的、例えばもっと相場を大きく捉えたいと考えれば 1 枠を大きな単位で、逆にもっと細やかな相場を捉えたいと考えれば 1 枠を小さな単位でとらえればよいということです。

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

但し、どちらも度を過ぎると目的如何にかかわらず実戦的ではなくなりますので注意が必要です。まずは私の「実戦相場」で採用している1枠の単位で始めて下さい。

相場に絶対はない」ことの延長として絶対的に正しい1枠の価格はありません。他の商品では私がベースとしている1枠の価格を記します。

ユーロ・米ドル (EURUSD) : 0.005 米ドル

豪ドル・円 (豪ドル/円) : 50 銭

英ポンド・円 (GBPJPY) : 1 円

NZドル・円 (NZドル/円) : 50 銭

カナダドル・円 (CADJPY) : 50 銭

スイスフラン・円 (CHFJPY) : 50 銭

香港ドル・円 (HKDJPY) : 5 銭

英ポンド・米ドル (GBPUSD) : 0.01 米ドル

米ドル・スイスフラン (USDCHF) : 0.005 スイスフラン

南アランド・円 (ZARJPY) : 10 銭

(ご参考)

『1枠をいくらに設定するか？両極端の例でみると....』

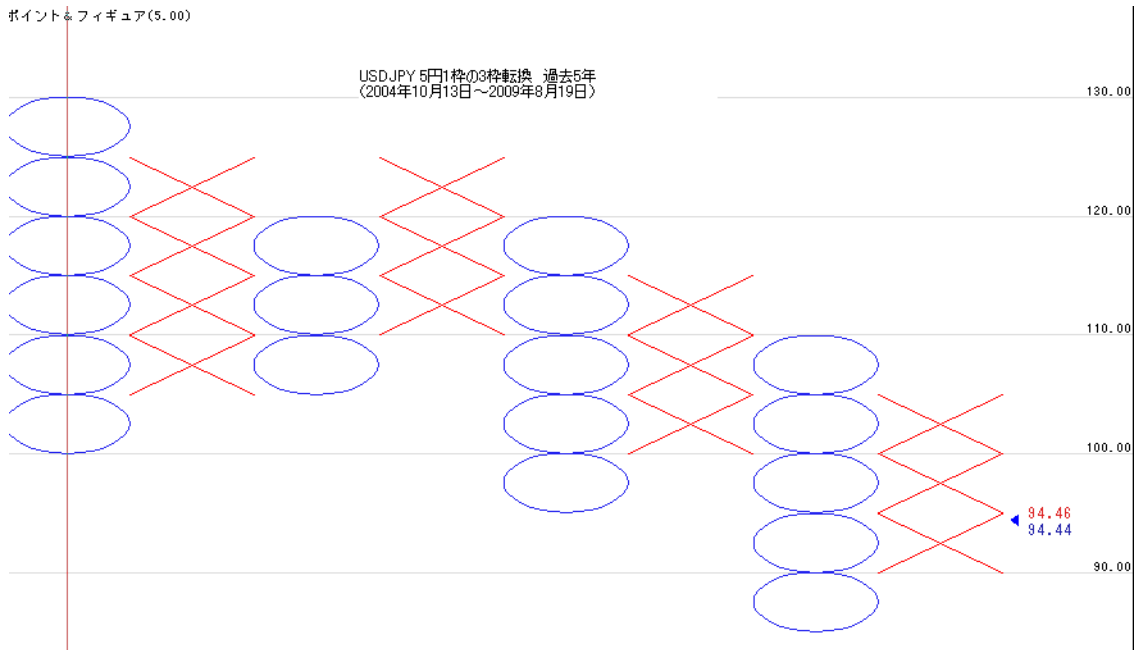
1枠をいくらに設定するかについて、各々の目的に応じる程度大きさを変えて実戦で試してみることは自らの「PFによる実戦相場」を身を持って修得していくためには必要な過程だと思います。但し、1枠の単位が大きすぎても小さすぎても実戦には適しません。その実戦には適さない両極端を具体例で示しましょう。

図6は2004年10月13日～2009年8月19日の期間の米ドル/円の実際の為替相場を使って1枠の単位を大きくとって1枠5円の3枠転換で描いたものです。大きな相場のトレンドは把握できたとしても実戦的な売買には適さないことが理解できるかと思います。

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

Pan Rolling Inc. Copyright ©Tetsuro Matsumoto. All rights

【図 6】



また図7はこれとは逆に1枚の単位を小さくとして1枚1銭の3枚転換で描いたものです。1枚5円の絵に比べれば売買が可能そうですが、売買頻度が多すぎて資産を殖やす目的のためにはやはり実戦的ではありません。

【図 7】



本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保障するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。

P Fの絵は手描きが基本ですが、いろいろな業者が提供しているソフトを利用すれば1 枠を自由に設定でき、瞬時の内にかかなりの期間を遡って描けますので、実際にご自分で1 枠の単位を変化させて**実戦で試してみ**て各自の目的に合った1 枠の単位を探しだすのも一つの納得を伴った**実戦的な方法**かもしれません。周囲の「雑音」に苛まれることなく自分自身の納得のゆく「相場の捉えるための軸」を見つけ出すことが重要だからです。

【図 8】



私が長年実戦している1 枠 50 銭の3 枠転換のほぼ同じ期間の絵は図8の通りです。前の両極端な捉え方との差が明瞭かと思えます。米ドル/円については1 枠 50 銭で捉えるのが**資産を殖やすためにも実戦的な手法**であることが視覚的にもご理解頂けるとおもいます。

本レポートで説明・解説した方法や技術、指標が利益を生むとか、あるいは損失につながることはないとは仮定してはなりません。本レポートで開示する情報、過去の結果は将来を保証するものではありません。本レポートは教育的な目的でのみ用いられるものであり、自己の責任に基づき独自にご判断下さい。売買の注文を勧めるものではなく、そのいかなる結果にも当社は責任を負いません。本レポート及びその内容を無断でコピー、引用等する行為は禁止します。